

## トルコ為替週報

2023年9月12日 | みずほ銀行欧州資金部

&lt;過去1週間の動き&gt;

(9月5日～9月11日)

USD/TRY: 26.7399～26.8878

TRY/JPY: 5.43～5.52 (参照値)

過去1週間のトルコリラは引き続き動意の薄い展開となった。もっとも、原油価格(ブレント)が昨年11月以来となる1バレル=90ドルを超えて上昇したことや、米景気指標の堅調さを背景に米金利上昇・ドル高となっていたことを踏まえれば、リラは他通貨に比べてかなり底堅く推移したとも評価できる。

過去1週間のトピックスとして、中期経済計画(MTP)の発表と、エルドアン大統領によるトルコ中銀の金融引き締めを支持する発言が挙げられる。

9月6日に発表されたMTPのポイントは以下の通り。(1) 2月の地震地域の復興作業を優先し、投資、雇用、生産、輸出を支援することで経済成長を維持する。(2) インフレ圧力を引き起こす可能性のある消費支出の増加を抑制するための措置を講じる。(3) 地震後の支出と地震リスクを軽減するための支出を除き、公共支出を削減し、公共支出を削減するための構造改革を実施し、課税ベースを拡大する。ユルマズ副大統領は構造改革の詳細は後日、公表するとした。これまでのMTPは成長促進一辺倒といった印象も強かったが、今回は、インフレ率の抑制や財政健全化といったマクロファンダメンタルズの安定化に重きが置かれている印象だ。そうした政府のスタンスの変化を反映する形で、実質GDP成長率の目標も昨年9月公表のMTPと比較して、2023年が前年比+5.0%から同+4.4%に、2024年が前年比+5.5%から同+4.0%に引き下げられている。国際機関、例えばIMFの予測では今年7月時点で2023年は前年比+3.0%、2024年は同+2.8%となっていることと比較して経済成長の減速の度合いは緩やかだが、方向性としてはより現実的な見通しに修正されたといえるだろう。

MTPの内容以上に注目を集めたのは、エルドアン大統領がMTP発表同日に語った「金融引き締めの支援を受け、我々はインフレ率を1桁台に押し下げ、経常収支を改善する」という発言である。これまで公の場でここまではっきりとエルドアン氏が金融引き締め策を支持したことは無かったと思われる。

もっとも、MTPやエルドアン大統領の発言を受けてリラは上昇したが、その動きは継続しなかった。国内外で政府のインフレ抑制への決意とリラの安定化に向けた政策の持続性に対する疑心暗鬼がまだ強いことを伺わせる。9月11日に発表された経常収支(7月分)もトルコ国民のリラに対する不信感がまだ根強いことを示唆する内容となった。結果は54.7億ドルの赤字と6月分の6.5億ドルの黒字から一転して大幅な赤字となった。市場予想の45億ドルの赤字をも上回った形だが、主に金の輸入の増大が影響している。資産防衛の目的での金買いが続いているものと思われる。8月には政府が未加工の金の輸入に割当枠を科すことを検討、と報じられているが、今後の政策の展開が注目される。

&lt;過去1週間に発表された主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
9/11	08:00	経常収支(10億ドル)	7月	-4.50b	-5.47b	0.65b
	08:00	失業率	7月		9.4%	9.6%
	08:00	鉱工業生産(前年比)	7月		7.4%	0.6%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

&lt;向こう1週間の見通し&gt;

(9月12日～9月18日)

USD/TRY: 23.00～28.00

TRY/JPY: 5.20～6.30

今後1週間は、相場のカタリストとなりそうな材料が少なくともトルコ国内の経済指標・イベントでは見当たらない中、リラはじり安の展開が続くそう。もっとも、8月会合でのトルコ中銀の大幅利上げ、現実的な中期経済計画の発表、エルドアン大統領の利上げ容認発言、など政策の方向性は正しい方向に向かっているだろう。9月8日には大手格付会社Fitchが※Bのトルコの格付けの方向性を※ネガティブから※安定的に引き上げるなど、政策の変化を前向きに評価する動きも広がりつつある(※日本では無登録格付け)。

&lt;向こう1週間に発表予定の主要経済指標等&gt;

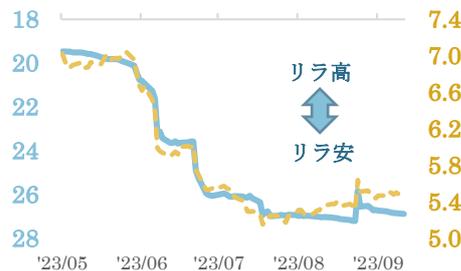
月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
9/12	08:00	小売売上高(前年比)	7月			28.5%
9/18	12:30	住宅価格(前年比)	7月			95.85%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

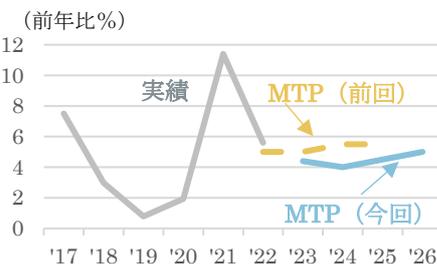
トルコ・リラの推移

実線:対ドルレート(左軸、逆目盛)

点線:対円レート(右軸)



中期経済計画(MTP) 実質GDP成長率目標



金 純輸入額

棒グラフ:金額(左軸)

折れ線:12か月累計値対GDP比率(右軸)



(資料:トルコ統計局、ブルームバーグ)

&lt;文責&gt;

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

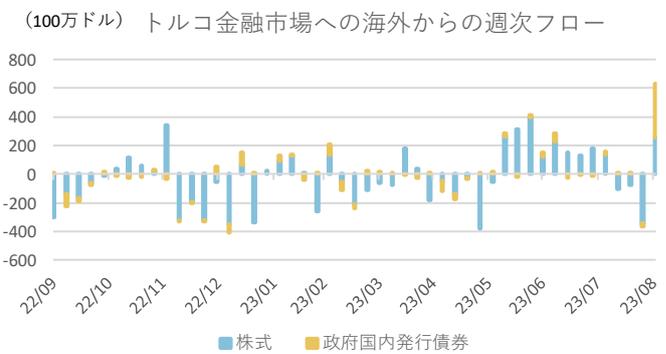
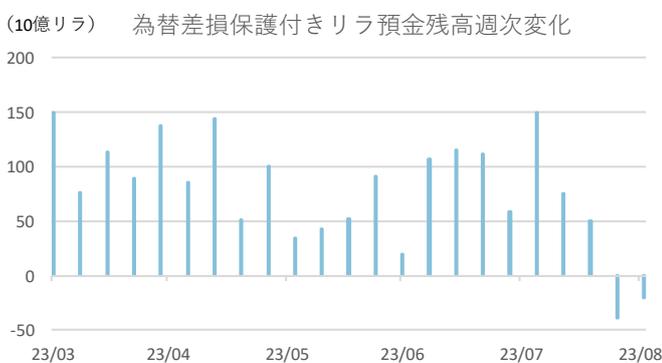
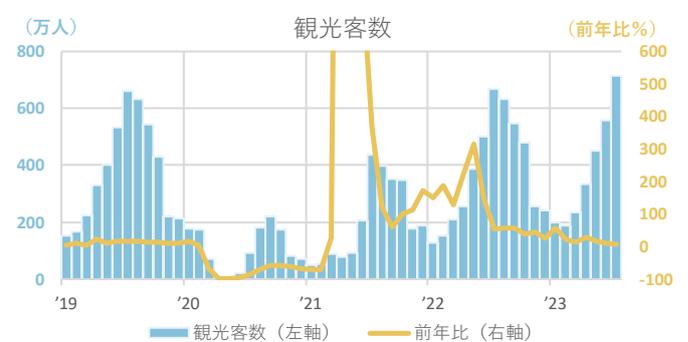
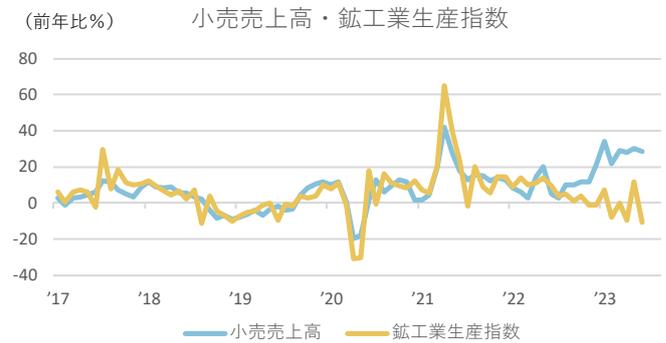
[masayuki.nakajima@mhcb.co.uk](mailto:masayuki.nakajima@mhcb.co.uk)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

## トルコ為替週報

2023年9月12日 | みずほ銀行欧州資金部

## ＜主要経済指標の推移＞



(資料：トルコ中央銀行/トルコ統計局/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。